

令和6年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」

大阪市立東小橋小学校

令和7年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は「ひとりひとりを大切にし、豊かな心を育てる」を学校教育目標に、「人にやさしく、元気な『東小橋っ子』の育成～をめざす子ども像に掲げて、日々の教育活動に取り組んでいる。

1. 自らすすんで学習する子どもの育成

学力・体力の向上については、児童の実態に即して教員の授業力を高め、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業を積み重ね、保護者や地域と連携を密に図りながら、取り組んできた。新型コロナウイルス感染拡大の中で、学年の実態や感染状況に応じて双方向によるオンライン学習を進めることができた経験を活かし、一人一台端末を利用した心の天気やデジタルドリルの効果的な活用を進めていきたい。

2. 仲間を大切にする子どもの育成

安全・安心の実現においては、地域の方々に子どもたちを知ってもらうことで身の安全にもつながる「元気なあいさつ」と自ら安全・安心な生活が送れることをめざした「防犯・防災」の指導を続けている。その結果、「すすんでしっかりとあいさつをしています」では、校内アンケートにおいて令和 3 年度末は 90% 以上の児童が「あいさつをしている」という肯定的回答をした。引き続き、「元気なあいさつ」が聞こえてくる学校づくりを目指して取り組んでいきたい。

3. 人の気持ちを考えて行動できる子どもの育成

常に自分自身と友達も含めて人の気持ちを考え、配慮しながら行動できるように指導をすすめ、「友達と仲よくしている」児童の割合をさらに増やしていきたい。

4. 最後までやりとおす子どもの育成

何事にも、ものごとを最後までやりとおす粘り強さとあきらめないと強い意志を育てていけるように指導を工夫していく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 90% 以上にする。
- ・令和 7 年度の本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 95% 以上にする。
- ・令和 7 年度末の校内児童アンケートにおいて、「すすんでしっかりとあいさつをしています」の項目に対して肯定的に回答する児童の割合を 90% 以上にする。
- ・令和 7 年度末の校内児童アンケートにおいて、「遠足や社会見学、芸術鑑賞などの学習が楽しい」（1～4 年）「遠足や社会見学、芸術鑑賞などの体験的な学習に楽しんで取り組んでいる」（5, 6 年）の肯定的な回答を 95% 以上にする。

中期目標

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を62%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を88%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より2ポイント減少させる。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より2ポイント減少させる。
- ・年度末の校内児童アンケートで「マナーを守って楽しくおいしく食べようとしている」の項目の肯定的な回答の割合を95%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の55%以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）。
- ・令和7年度において、第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を95%以上にする。
- ・令和7年度末の教職員アンケートにおいて、「校内研修が充実していたと思うか」の項目に対して肯定的に答える教職員の割合を95%とする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ・本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。
- ・令和 6 年度末の校内児童アンケートにおいて、「すすんでしっかりとあいさつをしています」の項目に対して肯定的に回答する児童の割合を 89%以上にする。
- ・令和 6 年度末の校内児童アンケートにおいて、「遠足や社会見学、芸術鑑賞などの学習が楽しい」（1～4 年）「遠足や社会見学、芸術鑑賞などの体験的な学習に楽しんで取り組んでいる」（5, 6 年）の肯定的な回答を 93%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 60%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- ・小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- ・年度末の校内児童アンケートで「マナーを守って楽しくおいしく食べようとしている」の項目の肯定的な回答の割合を 93%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業目において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）。
- ・第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 93%以上にする。
- ・年度末の教職員アンケートにおいて、「校内研修が充実していたと思うか」の項目に対して肯定的に答える教職員の割合を 93%以上とする。
- ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を 78%以上にする。

【その他】

- ・次年度入学予定者数が 13 名以上となることを目指す。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

年度目標に対する達成状況はBとなっており総合的に見て取り組んだ内容が結果として表れているといえる。

小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にするという目標に対する結果が66%であり目標には大きく及ばない。しかしながら、この項目に対する取組の進捗状況はAとなっている。本校の実態として、「いじめ」が身近にないことからいじめに関するイメージが持てていない児童がいることが質問項目の割合を下げている一つの要因と考えられるのではないかという意見が、最終評価の全体会でも上がっている。次年度に向け、改めて児童の実態を分析し、目標達成に向けて全校を挙げて取り組んでいく必要がある。

その他の項目に関しては目標値に近い値を得ることができておらず、それぞれの取組の成果が結果に結びついているといえる。中期目標達成に向けて、同様の取り組みを次年度も推し進めていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

年度目標に対する達成状況はBとなっており総合的に見て取り組んだ内容が結果として表れているといえる。

指標『就学前施設と連携した取り組みを年3回以上実施する。』に関しては7回実施することができた。それだけにとどまらず、図書館司書がいる時間に幼稚園・保育所の園児が本を借りることができるようになり、気軽に小学校に来校できるようにした。それにより、小学校就学に向けての相談や、学校選択制に関する相談が寄せられるようになった。また、回数にはカウントしていないところでも幼稚園や保育所の行事に参加する機会が増えたことで、園児の小学校に対する抵抗感を減らすことができていると感じている。

指標『校内児童アンケートの「国語の学習では、自分の考えを話したり書いたりしている。」(1~4年)「国語の学習では、目的に応じて自分の考えを話したり書いたりしている。」(5, 6年)「算数の学習では、新しい問題を自分から取り組んでいる。」(1~4年)「算数の学習では、問題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」(5, 6年)それぞれの項目において肯定的な回答を80%以上にする。』に関してはそれぞれの項目で目標を達成していたが、年度目標『小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか』に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を60%以上にする。』の目標達成には至らなかった。「話し合い活動の深め方・広げ方」について、教員で共通理解して授業に生かせるよう次年度に向けて取り組んでいく必要性がある。

【学びを支える教育環境の充実】

年度目標に対する達成状況は B となっており総合的に見て取り組んだ内容が結果として表れているといえる。

授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）。に関しては、結果は 52% となり目標の数値を達成することができている。今後 ICT 活用において小学校が担う割合が大きくなってくることは当然のことと考えられる。学習者用端末を学びのツールとして使いこなすことができるよう、学校全体で取り組んでいくことが必須事項となってきていると考える。

小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を 78% 以上にするにおいては、71% と目標値を達成することができなかった。読書量が「読書が好き」につながっていない状況が結果として表れていることから、次年度にむけて取組を検討していく必要がある。

(様式 2)

大阪市立東小橋小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいいことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。 ・本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。 ・令和 6 年度末の校内児童アンケートにおいて、「すすんでしっかりとあいさつをしています」の項目に対して肯定的に回答する児童の割合を 89%以上にする。 ・令和 6 年度末の校内児童アンケートにおいて、「遠足や社会見学、芸術鑑賞などの学習が楽しい」(1～4 年) 「遠足や社会見学、芸術鑑賞などの体験的な学習に楽しんで取り組んでいる」(5, 6 年) の肯定的な回答を 93%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 1-1 いじめへの対応】 いじめのアンケート調査を定期的に実施し、当該児童からの訴えを的確に聞き取り、課題の解決を図る。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめのアンケート調査を年間 3 回以上行う。 ・認知したいじめ事案については、100%の解決を図る。 ・「いじめについて考える日」及び「いのちについて考える日」を設定し、いじめ防止の意識を高めるための特別活動や道徳授業を実施する。 	A
<p>取組内容② 【基本的な方向 1-3 問題行動への対応】 保護者との連絡を密にしながら、区役所（地域子育て支援）やスクールソーシャルワーカー（SSW）、スクールカウンセラー（SC）、こども相談センターとの連携を図り、問題事象の解決を図る。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象が起きた時の指導内容や保護者対応等について、事象発生時は毎回記録する。 ・毎月の生活指導部で今後の指導・支援についての教職員間の共通理解を図る。 ・区役所（地域子育て支援）や子ども相談センターと連携する。 	B
<p>取組内容③ 【基本的な方向 2-1 道徳教育の推進】 月別生活目標や、児童会の取り組みに「あいさつ」を位置づけ、学校の重点目標として指導を図り、あいさつをすすんでしっかりとできる子を育てる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間 2 回以上のあいさつに関わる取組を実施する。 	A

<p>取組内容④【基本的な方向 1-6 安全教育の推進】</p> <p>情報モラル教育を実施し、児童自身が適切に情報機器を使用できるようにする。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階にあわせた情報モラル教育を年1回は実施する。 	A
<p>取組内容⑤【基本的な方向 2-2 キャリア教育の充実 2-3 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>芸術鑑賞会・体験学習・校外活動を行い、豊かな心の育成を図る。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内における全学年対象の芸術鑑賞会を年に1回以上行う。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートは紙・タブレット回答合わせて4回行い、実態把握に努めた。学校で認知したいじめの解消率は100%となっており、児童たちが安全・安心に登校できる環境をつくることができている。 ・あいさつ週間を、各学期に1度実施し、全学年の児童が校門に立ってあいさつをする体制をとることにより、意識づけを行ったが、令和6年度末の校内児童アンケートにおいて、「すすんでしっかりとあいさつをしています」の項目に対して肯定的に回答する児童の割合が目標に1%足りなかった。 ・情報モラル教育に関しては、各学級での取り組み以外に、KDDI主催の「スマホ安全教室」を実施した。1・2年生と3～6年生に分かれて、発達段階に応じた内容を取り扱って知識を深めさせた。また、教職員対象の研修会を行うことにより、指導者の知識も高めた。その結果、本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童は100%であった。 ・芸術鑑賞会のほかに、全学年対象の夢授業で、ダンスの体験を行った。各学級においては実態に応じた出前授業や社会見学等を行った。令和6年度末の校内児童アンケートにおいて、「遠足や社会見学、芸術鑑賞などの学習が楽しい」(1～4年)「遠足や社会見学、芸術鑑賞などの体験的な学習に楽しんで取り組んでいる」(5, 6年)の肯定的な回答は95%であり、目標を上回った。 ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合は67%であり、目標には達成しなかった。肯定的な回答は96%であり、「そう思わない」と回答する児童も4%いた。 ・年度目標については、目標を上回ったものも達成しなかったものもあるため、総合評価をBとした。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・校門に立つあいさつ運動以外の取り組みを、児童の意見を取り入れながら行う。 ・「どんな理由があってもいじめはいけない」と最も肯定的に回答する児童を100%にするため、学校をあげて働きかけを強化する。 ・情報モラルに関する授業、教職員対象の研修会は、今後も継続していく。 ・これまで同様、地域や保護者とのつながりを密に連携していく。 	

(様式2)

大阪市立東小橋小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を60%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を85%以上にする。 ・小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 ・小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 ・年度末の校内児童アンケートで「マナーを守って楽しくおいしく食べようとしている」の項目の肯定的な回答の割合を93%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 3-1 就学前教育カリキュラム等に基づいた教育の推進】</p> <p>就学前教育施設と連携し、円滑な教育の接続を図る。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前教育施設と連携した取り組みを年3回以上実施する。 	
<p>取組内容② 【基本的な方向 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】</p> <p>学習過程を質的に改善し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業を進めます。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内児童アンケートの「国語の学習では、自分の考えを話したり書いたりしている。」 （1～4年）「国語の学習では、目的に応じて自分の考えを話したり書いたりしている。」 （5, 6年）「算数の学習では、新しい問題を自分から取り組んでいる。」 （1～4年）「算数の学習では、問題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」 （5, 6年）それぞれの項目において肯定的な回答を80%以上にする。 	

<p>取組内容③【基本的な方向 4-3 英語教育の強化】 「小学校低学年からの英語教育」、外国語活動、外国語科における、対話的な学びを通して自分の考えを広げ深める子どもを育てる。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語科、外国語活動の学習における各単元末評価において、以前の自分と比べ「できる」と肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ・全学級で、1回15分×週2回の「小学校低学年からの英語教育」を実施する。 	B
<p>取組内容④【基本的な方向 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】 体育科の授業において児童が「できるようになった」と達成感を感じる授業を実施する。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内児童アンケートの③「音楽や体育などいろいろなことに挑戦し、できるようになってきている」の項目において肯定的な回答を85%以上にする。 	A
<p>取組内容⑤【基本的な方向 5-2 健康教育・食育の推進】 基本的な生活習慣の指導を行い、児童の健やかな成長を図る。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣に係る家庭への啓発を、ほけんだよりで年に11回以上行う。 ・給食週間に健康委員会による集会を開催する。 ・食育について、家庭への啓発を食育だよりで年に11回以上行う。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前施設と連携した取り組みは、「水遊び」「秋みつけ」「秋遊び」「昔遊び」「公園そそうじ」「プール交流」「ドッジボール」の7回実施し、目標の年3回を大きく上回った。 ・校内児童アンケートの「国語の話す・書く」「算数の思考・判断・態度」の項目において肯定的な回答が共に86%となり、目標の80%を上回った。 ・外国語科、外国語活動の学習における各単元末評価において、以前の自分と比べ「できる」と肯定的に回答する児童の割合が93%となり、目標の80%を上回った。 ・校内児童アンケートの「音楽や体育の態度・技能」の項目において肯定的な回答が94%となり、目標の85%を上回った。 ・給食週間に健康委員会による集会を開催した。また、基本的な生活習慣に係る家庭への啓発をほけんだよりで、食育について、家庭への啓発を食育だよりで、共に年12回発行した。 <p>◎以上のように年度目標の達成に向けた取組内容を行ったが、大阪市が定めた小学校学力経年調査におけるアンケート6項目のうち4項目は目標を達成できなかった。そのため、総合評価をBとした。</p>	
<p>次年度への改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目が低かったので、「話し合い活動の深め方・広げ方」を校内で研修を行い、教員で共通理解して授業に生かせるようにする。 ・「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目が低かったので、まず、肯定的に捉えていない児童の理由を把握する。原因是「できない」「怖い」「経験がない」等多岐にわたると考えられが、「できない」なら『小さなできる』を積み重ねる。「怖い」なら『怖くない場』を用意する。「経験がない」なら『感覚づくりの運動』 	

を取り入れる等、授業改善によって、運動を否定的に捉えている児童の割合が減るようにする。そのために、校内で研修を行う。

- ・小学校学力経年調査における、国語・算数の学力に課題の見られる児童の割合を減らすために、できる・わかる児童だけで授業を進めるのではなく、困っている児童に寄り添った授業を行う。また、単元が終わると内容を忘れてしまう児童が多いので、学力に課題の見られる児童を把握し、定期的に理解度を確認するようにする。

(様式2)

大阪市立東小橋小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）。 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を93%以上にする。 年度末の教職員アンケートにおいて、「校内研修が充実していたと思うか」の項目に対して肯定的に答える教職員の割合を93%以上とする。 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を78%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 学習者用端末（一人一台タブレットPC）のデジタルツール等を各学年の実態に応じて活用する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末を活用した家庭学習を、月1回（年平均）以上実施する。 (ただし、1年生は2学期より上記指標の対象とする) 	A
<p>取組内容②【基本的な方向7-1 働き方改革の推進】 全学年で副担任制を実施する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内児童アンケートにおいて、「授業がわかる」の項目に対して否定的に答える児童の割合を5%以下にする。 	A
<p>取組内容③【基本的な方向7-2 教員の資質向上・人材の確保】 各教員のニーズ・課題に沿った研修を計画的に実施する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内研修を年間10回以上行う。 	A
<p>取組内容④【基本的な方向8-3 学校図書館の活性化】 読書タイムやブックバッックを活用し、読書環境を整えていく。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内児童アンケートで「今の学年になって10冊以上、本（デジタルライバリを含む）を読んだ」と回答する児童の割合を70%以上とする。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末の活用率が児童の8割以上となる日が約52%となった。4月5月の利用率が全体的に低くなってしまっており、新学年が始まってから活用が定着するまでに時間がかかっていることがうかがえる。また、学習者用端末を持ち帰っての家庭学習については全学年で月1回以上実施されており、こちらも定着してきている。 副担任制の実施により、児童の授業が分かる実感が高まり、否定的な回答が0%となっている。 校内研修は年間42回実施されており、これについての教職員の満足度も100%となり、研修の内容や回数が教職員のニーズに合致している。 経年調査による「読書が好きですか」の肯定的回答が高学年になるにつれて低下する傾向が見られた。しかし年間読書数が10冊以上の児童は94%となっており、児童の読書に対する実感が乖離している様子が見られる。
次年度への改善点
<ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末の教室内の利用状況や各学年の心の天気の実施状況からみて、活用率が結果の数値よりも高くなてもよいように思うが、小規模校であるがゆえに数人の欠席や入力もれが大きく影響していると思われる。心の天気の学級一覧などをを利用して、もれのないように児童に実施を促していく。 経年調査の「読書は好きですか」の肯定的回答が低下していく傾向が見られ、校内での読書の機会が減少しているのは、学習者用端末の利用率が上がってきていていることと関していると思われる。すきま時間は読書する習慣やルール作りなど、読書を増やす取り組みを実施するとともに、タイピング練習などの学習者用端末を用いた反復練習などは、実施する条件や曜日、期間を決めたり、持ち帰って家庭学習で行ったりするなど、読書とのバランスの取れたガイドラインが必要と思われる。 各学年の児童たちは年間10冊以上の読書をしているが、読書量が「読書が好き」につながっていない状況が見て取れるため、新たな指針や取り組みを検討する必要がある。